

食品の品質管理と大阪の経済状況を学ぶ

山梨県食品工業団地協同組合青年部(金井芳郎部長)は、2月25~26日に中央会の青年部人材育成支援事業を活用して視察研修を実施した。

25日には、商工中金大阪支店小俣営業部長(前同甲府支店長)が大阪管内の景気情勢について講演を行った。大阪の経済は、観光娯楽産業であるユニバーサル・スタジオ・ジャパンが牽引している



説明を熱心に聞く参加者

面があり、ハリー・ポッターなど新たなアトラクションを次々に投入し、日本人だけでなく、東南アジアからの観光客を集客している。

また、日本一の高さを誇るビルあべのハルクスなどの商業施設も集客と販売で大阪経済に貢献しており、外国人による免税店の売上が景気を支えている。一方、メーカーの生産は好調ではなく、特に中小企業の景況は厳しく、経済全体としてはそれほど良くないという。

26日には、サントリー山崎蒸留所の見学を行った。「日本人の繊細な味覚にあった、日本のウイスキーをつくりたい」という創業者鳥井信次郎の熱い想いから1923年に日本初のモルトウイスキー蒸留所の建設が行われ、木樽発酵槽とステンレス発酵槽を使い分け、酵母の厳選、長期熟成などこだわりをもって製造している。また、蒸留所内には、ポットスチル等が整然と並べられ、貯蔵庫内の樽は形状、材質、大きさ等が厳正に管理され、徹底した品質管理が行われていた。品質管理への安心感と



工場見学の様子

信頼感が「山崎ブランド」としての価値の源泉であると感じた。

今回の研修では、創業者の想いを貫くことの大切さ、ブランド力の構築と向上にむけ努力することの大切さ、消費者の安心感・信頼感の根底にある徹底した品質管理・衛生管理への真摯な取り組みなどを学ぶことができた。各社の経営を再度見直し、自社製品の魅力を高め、消費者に発信していく必要性を感じた研修であった。